

研究・調査報告書

報告書番号 186	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Modest wine drinking and decreased prevalence of suspected nonalcoholic fatty liver disease 中程度のワイン摂取と非アルコール性脂肪肝疾患が疑われる患者数の減少	
執筆者	
Dunn W, Xu R, Schwimmer JB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Hepatology. 2008 Jun;47(6):1947-54.	
キーワード	
ワイン、非アルコール性脂肪肝	
要 旨	
<p>冠状動脈性心疾患のリスクがあるヒトは、多くの場合、非アルコール性脂肪肝 (NAFLD) のリスクも高い。NAFLD と中程度のワイン摂取との関係については研究がなく、心疾患や NAFLD 患者へのワイン摂取の推奨についても意見が分かれるところである。著者らは、中程度のワイン摂取が NAFLD の罹患率減少と関連があるかどうか、調べた。Third National Health and Nutrition Examination Survey 参加者のうち、7211 名の非アルコール摂取者と 945 名の赤ワイン摂取者 (1 日当たりアルコール換算 10g 程度まで) で検討を行った。また、原因不明の ALT の上昇が見られるものを NAFLD 疑いとし、ALT>43 と ALT>30 (男性)、ALT>19 (女性) の 2 種類のカットポイントを設けて解析を行った。年齢、性別、人種、近隣、収入、教育、カフェイン摂取、身体活動で調整して、多変量解析を行った。ALT>43 をカットポイントとした場合、NAFLD の疑いがあるものが非飲酒者に 3.2%、中程度の赤ワイン摂取者に 0.4% 見いだされ、調整後のオッズ比は 0.15 であった (95%CI:0.05-0.49)。ALT>30 (男性)、ALT>19 (女性) をカットポイントとした場合、NAFLD の疑いがあるものが非飲酒者に 14.3%、中程度の赤ワイン摂取者に 8.6% 見いだされ、調整後のオッズ比は 0.51 であった (95%CI:0.33-0.79)。以上より、中程度のワイン摂取が NAFLD の罹患率を減少させることが示唆された。</p>	